

の姪であつた。

トミタシゲカズ 富田重員トダ 通稱治部

左衛門。富田重持の子で、初名を吉兵衛重治といふ。元祿二年三月十三日前田綱紀に召出されて新知五百石を受け、大小將組に列し、五年十月廿九日父の遺知中二千五百石(内千石與力知)を賜はり、殘知五百石を弟右門に配分し、前祿五百石は召上げられ、小松城番・公事場奉行に歴任し、享保四年七月十六日五十九歳を以て歿した。重員字を孟敬、號を雪山といひ、本多政敏・奥村脩進等と詩社を結んだ。

トミタシゲサダ 富田重貞 通稱甚五左衛門・織人。貞享二年父治太夫(二代)の遺知三百石を襲ぎ、諸職を経て享保九年七百石を加へ、十二年人持組となり五百石を加へ、計千六百石に至り、十六年七十二歳を以て歿した。本文知行高の計數合はざるものは、別に百石を加増したことがあるのであらう。

トミタシゲツク 富田重次トダ 通稱吉兵衛・越後。重康の子。寛永二十年十一月前田光高に召出されたが、幼少の爲父の遺知の内五千石を受け、翌年老侯利常に屬して小松に移り、正保二年八月十二日十六歳を以て歿した。

トミタシゲマサ 富田重政トダ 通稱與六郎。六左衛門・大炊。父は山崎彌三兵衛景邦。天正三年越前府中で前田利家に仕へて知行百石を受け、十二年富田景政の婿養子となり、末森の役及び關東の役に従ひ、文祿中景政の歿後遺領三千四百石を襲ぎ、慶長元年九月二日下野守に叙爵し、次いで越後守に改め、五年大聖寺・小松兩役に功あり、遂に一萬三千

六百七十石を受けて人持組に列した。次いで十八年隱居して三千石を受け、又大坂兩次の役に従ひ、寛永二年四月十九日六十二歳を以て歿した。法號日惠。重政の祖父山崎河内守景隆は富田長家の門下であつたが、その血統を受けた重政は、又義父景政の藝統を並いで、最も劍法に達し、時人之を名人越後と呼んだ。

トミタシゲモチ 富田重持トダ 通稱越後。治部左衛門。實は奥野主馬の嫡子。富田重政の女は主馬の先代紀伊の室で、重持は重政の外曾孫であつた爲、前田利常は富田重次の後をこれに襲がしめた。時に歳十一で、知行三千石(内千石與力知)を領し、千石(内二百石與力知)を割いて實弟奥野吉藏に配分し、富田氏を肩さしめ、殘餘千石を召上げられた。元祿四年十二月三日五十七歳で歿。

トミタシゲヤス 富田重康トダ 通稱右京亮・甲斐・越後。兄重家に襲いで元和五年三月祿一萬石を受け、人持組頭に任じ、寛永二年父越後守重政の歿後名を越後と稱した。重康家藝を受けて劍法に達したが、晩年中風症に罹つて中風越後と言はれた。二十年八月廿二日四十二歳を以て歿。

トミタジダユウ 富田治太夫 初め横山山城に仕へて三百石を領し、次いで前田利常に臣事して亦同俸を受け、足輕頭に至り、萬治二年歿、子孫相繼いで藩に仕へる。

トミタセイフウ 富田青楓トダ ↓オクムラセイフウ 奥村青楓。幼名吉法師・與五郎。祿三百石。天正十一年柳ヶ瀬にて戦死した與五郎景勝の實子である。大坂再役に二、九極樂橋崩下で敵首一つを得、

後千四百石となつた。寺社奉行・組外裁許に歴任し、萬治二年致仕して宗慈と號し、寛文二年歿。子孫藩に世襲する。

トミタソウ 富田總 諱は勝愛。父長左衛門勝養は本多氏に仕へ、祿三百石。總、慶應元年十二月父の蔭を以て給人組に出仕し、衣服料十三俵を受けた。性敦厚にして奇才あり、又學を好み、明治四年十一月廿三日同志と共に故主本多政均の仇岡野梯五郎を討ち、五年十一月四日自裁を命ぜられた。享年廿二。

トミタカサタ 富田高定 通稱勘六・藏人。父を盛高といふ。幼にして豊臣秀次に隸し、秀次の不慮に斃じた時之に殉ぜんとし能はず、世を憚つて西山に隠れた。前田利長乃ち之に勸めて臣事せしめ、一萬石を給したが、大聖寺の役高定は請うて先鋒に屬し、力闘して傷を負ひ、自刎して歿した。時に歳二十七。子なくし斷絶した。

トミタタミノブ 富田民演トダ 通稱主税。勘右衛門の養子。遺知千石を領し、表小將から次第に昇進し、享保九年組頭並魚津在任に至り、祿二百石を加へ、十年二月廿六日四十二歳を以て歿した。

トミタツネムネ 富田庸至トダ 通稱左門。九内。九郎右衛門守典の養子。文政三年五百石を相續し、小松町奉行・同御番頭兼町奉行・御先簡頭に歴任したが、天保六年九月二百石を減じて役儀を除かれ、組外に列し、逼塞の後免された。

トミタナホヨシ 富田直吉 通稱下總。半田半兵衛の弟。祿八千三百三十石。前田利長の太聖寺城攻撃の時、利政の先鋒として奮戦し、次いで大坂の役にも従うた。その子右衛門は

富山侯の臣となつた。

トミタマサタカ 富田方巢トダ 通稱織部。重員の子。初名頼貞重經。享保五年八月六日遺知二千五百石(内千石與力知)を襲ぎ、後奏者番・公事場奉行等の職を經、寛延三年十月十一日隱居を命ぜられ、五百石を受け、剃髮して秋山と號した。寶曆四年五月四日七十五歳を以て歿。

トミタムネタカ 富田宗高トダ 通稱主計。越後守重政の三子。父の歿後その祿三千石を受けて人持組頭に列し、寛永十三年二月歿した。子なくして斷絶。

トミタヤトウコウ 富田屋棹江 金澤の俳人。通稱長兵衛又は長助。博勞町に住んで米仲買を業とした。眉山・蒼虬の門に學び、杉亭ともいひ、一時暮柳舎及び翠臺を預つた。弘化四年二月四日歿、享年六十六。

トミタヤヘエ 富田彌兵衛 前田綱紀に仕へて三百石を領し、元祿十二年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

トミタヨシチカ 富田良鄰トダ 通稱主税。初諱は政勝。主税民演の子。享保十年父の後を受けて千二百石を領し、寶曆十一年御使番に任じ、安永三年免除、四年六月廿六日五十五歳を以て歿。良鄰は字を徳夫、號を終南といひ、詩を由美希賢に學んだ。長子景周出でて宗家を襲ぎ、次子好禮その家を嗣いだ。

トミタヨシノリ 富田好禮トダ 通稱彦左衛門。父は主税良鄰。兄景周出で、本宗を嗣ぐを以て、好禮は安永四年遺知千二百石を受け、御馬廻組に列し、天明五年八月改作奉行・御勝手方御用に任じ、同年十二月八百石を加へ、物頭並を以て待遇せられた。これより先